

# 第1回金沢市集約都市形成計画策定委員会 議事要旨

## ＜検討内容＞

### 【交通に関して】

- ・バス停・駅の人口カバー率85%となっており、逆にいうと徒歩で駅やバス停にアクセスできない人が15%いることになる。
  - バス事業者の努力により、ネットワークとしては綿密に配置されているため、バス停まで歩いて行けるという点では概ね満足されている。しかし、時刻表を気にせずに利用できるという路線（例えば1日100便以上）は一部のみで、全てを網羅することはできない。金沢市では、公共交通等の交通体系について交通戦略策定委員会を別途立ち上げ検討しているが、路線の重要性を検討し、ある程度の方面をカバーする重要な路線を指定して、事業者と協力しながら利便性を上げていきたいと考えている。サービスレベルとしてはまだまだ課題があると考えている。
- ・バス停までの徒歩圏は、バス停からは300m、駅から800m、バス便は1日100便というサービスレベルの数値が示されているが、安心して暮らすためのサービスレベルを検討していく必要がある。
  - 交通戦略の中で詳細に検討をしていきたいと考えている。まずは重要路線を位置づけたい。なお、時間帯によってサービスレベルも異なり、目指すべき便数を設定していく予定である。一概に何便以上という仕切りはできないかもしれないが、サービスレベルに関しては交通戦略の検討結果を元にしていきたいと考えている。
- ・公共交通の整備と将来的な市街地整備はリンクして考えていかなければならないと思う。
- ・長い年月をかけて、利用状況や住宅地、公共施設などの立地状況を勘案し、今の路線網が形成されている。結果的に、便数の多い路線は利用者が多い路線であり、便数が少ないところは施設もなく需要も少ない路線となっている。
- ・人口減少の中、今のサービスを維持するためには、バス利用者を増やすしかない。増やすために都市構造を変えていくというのが今回の計画の目的である。

### 【人口・施設配置に関して】

- ・例えば幼稚園や保育園の配置については、総人口ではなく、該当する年代の方々をどれくらいカバーしているのかということが重要である。800m圏についても、子どもは歩けないので、車で送り迎えするのが一般的である。福祉施設も同様で、後期高齢者の分布とカバー率を示すべきであり、車いす対応や送り迎えの利便性に関する検証が必要である。

→今後、年齢構成別、地域別、将来推計に対する各地域の構成などについて把握していく必要がある。

・高齢者の数は当面増加するものの、どこかで山を迎え減少ことになるため、今増加しているから福祉施設を整備するという視点だけでなく、将来的な量や配置、また、市有の公共施設についても、耐震化や長寿命化、更新の他に統合や整理を考えていかなければならない。個別検討ではなく、本計画のような将来推計を含めて、全市的な視点が必要となる。次回委員会には、将来推計と合わせて実態を提示したい。

・全市的な視点と、地域生活圏レベルの分析も含めて実施できればよい。計画を立てる際に、例えば、福祉サービスの効率的な提供は人口密度がどの程度以上かという分析も今後検討していただきたい。

・まちなか定住への取組みは以前から力を入れてもおこなっているが、人口は増えているのか。  
→最近の傾向としては、社会増減は長年減少であったが、最近はプラスの傾向が定着してきた。ただし、高齢化が進んでいるため、自然増減は減少傾向であり、人口全体はプラスまでには至っていない。

#### 【高齢化に関して】

・高齢者が増えていく中で、国としては地域包括ケアとして施設よりも在宅ケアを中心とした施策展開を示している。24時間対応型の在宅中心のサービス事業所は充実しているのではないかな。

・高齢者のための施策を考えると、公共交通機関を利用せざるを得ない人が多く、公共交通の利便性についての検討が必要である。

#### 【居住に関して】

・市内のどんどこで空き家が増えているのかということが施策検討にあたって重要になってくる。

・現状は、若い世代は区画整理地区内に居住を求めており、将来は一気に高齢化する可能性もある。車で移動可能な時期はそこに住み、運転できなくなったら居住誘導区域に住むという考え方もある。高齢者だけではなく多世代を居住させていけば、将来の心配が少なくなるのではないかな。

・区画整理や宅地開発を郊外で多く行ってきたが、30～40年経つと、高齢化し空き地や空き家が増えてくる。うまく住み替わればよいが、なかなかうまく進まない。それでもまだ開発も進行しているという現実には矛盾しており、そのようなことを念頭に置いて計画を立てていく必要がある。

・これまでに居住が郊外に広がった経緯には理由がある。例えば、雪が多いことや、駐車場が必要なことなどである。特に、車は生活において必要となっており、中心市街地に駐車場を整備したとしても、郊外のショッピングセンターには行きたいという考える人は多い。このような点が難しく、今後の検討が必要となる。

・まちなかで分譲マンションを購入するのは年配層の50～60代が中心である。まちなか定住促進事業については、年配の方は住宅ローンができないため、補助は高齢者にはあまり意味がない。また、現実には、駅前のマンションであっても駐車場が必要となっている。北陸は、一台以上の駐車場を確保したいという意識があり、公共交通を便利にしても車を放さない人は多いのではないか。

・郊外から中心部へ移り住む人もいると思う。まちなか定住施策について金沢市はかなりの実績があるので、それらを踏まえて検討していく必要がある。

### 【その他】

・今回、整理されている問題点は、何らかの施策を打たなければより一層課題が進行してしまう。よほど大きな展開を図らないと、解決できるものではないと考える。高齢者以外に車を使わずに移動する人は、ほとんどが学生である。学生のまちなかでの活動が増えれば、大きな効果がある。

・不動産がもっと流動化するような形になれば、今回の集約都市としての機能していくのではないか。商店街が衰退しているところも多く、建物や土地が使われない状況にあり、所有者が変わり、使われるようにしていければ良い。

・中学校区や小学校区との整合が必要である。さらに、金沢市と言っても、例えば高齢化率では、まちなかの松枝では40%に対し、駅西や鞍月では15%程度であり、かなりの差がある。また、気軽に公共交通機関を利用して買い物やレジャーを楽しめるようにしていくことが重要だと感じる。

・行政主導でまちなかに居住を誘導していくことになるが、住民のライフスタイル、生き方をどう考えるのか。以前の新聞に、内閣府の調査でまちなかへの集約に対する反対意見も多いという結果もあった。住民の合意形成が必要であるが、市民意向の把握はどのようにするのか。

→市民のご意見を聞くにしても、ある程度の方針は必要だと考えている。ただし、中心部の一極集中にすることは全く考えていない。結果として中心部の人口密度の山がもっとも高くなるかもしれないが、多極分散型と考えており、規模や機能も段階に分かれる。

→市民の意見を聞くためのシンポジウムを開くことの検討も必要である。

・25年先を考えても人口は1割減程度ということだが、もう少し先を見据えると、人口減少の中で逆線引きというのは考えるのか。

→可能な場所では逆線引きも考えていきたい。例えば、昔に市街化区域に入ったものの、その後は計画的な開発が行われず、今後も予定がない場所等については、地権者の方と相談のうえ、逆線引きを検討していくことは必要だと考えている。居住調整区域は居住のみを調整する仕組みであり、居住以外の事務所などは立地が可能となる。今後、検討した上で必要となれば、活用も考えていく。

### 【今後のスケジュールに関して】

・今後は都市機能誘導区域を先行して検討しながら、居住誘導区域も併せて検討していくことになる。今年度は、概略の素案、おおよその配置の方針までを検討したいと考えている。

## ＜最後に＞

### （事務局）

様々な意見をいただき感謝する。

誘導に関しては、25年間で人口が1割しか減少しないため、人口分布や市街地構造は大きく変わらないと考える。こういった状況を踏まえ、本計画は成人病に例えることがある。これは、車があれば、どの方向にも楽しめる市街地になっているが、この楽しさは、そう遠くない将来に、高齢化や人口減少により、必ず問題が生じる。金沢市は、すぐに入院しなければならない病状にはないが、今後顕在化してきた際にあわてても遅い状況になる。今の段階では、物理的な誘導もあるが、生活習慣として、例えば車を使った移動が100回あるとしたら、1回だけ公共交通を利用するなど、現段階では生活スタイルをいかに正していくかが重要であり、そのために都市構造も変えていく必要がある。

日常の買い物についても、人がまばらであればあるほど出店しにくい状況にあり、居住密度がある程度見込めれば出店しやすくなる。公共交通についても、これまでの現況追認から、逆にこの路線は将来にわたり行政も協力した上で維持すべきというような考え方に変わり、住居を考える際の選択肢の一つになればと考えている。

まずは、生活スタイルの変化を図るための都市構造の変化を行っていきたい。